

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名： 公益財団法人 大垣国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	地域日本語力はぐくみ事業 ～外国人から支援ボランティアまで～
事業の目的	言葉や生活習慣、文化の違い等から日本人と外国人の間で生じるトラブルや、言葉の壁によるコミュニケーション不足を解消するために、外国人が日本語コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設け、地域の人と積極的にコミュニケーションが取れる下地をはぐくむ。また、地域住民が日本語学習支援の支援者として外国人に寄り添い、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させ、日本人と外国人が共に認め合える地域づくりを目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	大垣市を中心とした地域には外国人労働者を雇用する工場等が多く、大垣市に在住する外国人はここ数年増加傾向にあり、割合は約2.9%(平成29年11月末)と全国平均より高い。近年は、日系ブラジル人を中心に日本に定住することを希望する人の増加や国際結婚の増加により、日本社会の一員として暮らす外国人が増えるとともに背景も多様化している。 日常生活の悩みや困っていることを外国人市民に尋ねたアンケート(平成28年度大垣市実施)によると「言葉が通じない」、「必要な情報が得られない」という回答が上位に挙げられた。そこで、過去2年間は、「言葉が通じない」外国人が最低限の日本語能力を習得するための基礎コースと、「必要な情報が得られない」外国人が日本語を学習しつつ日本の生活情報を習得する会話コース及び生活情報習得クラスを開催し、それぞれのニーズに対応させていた。しかし、日本語学習を希望する人が年々増加しており、また间断なく訪れるため、人によってはコースが開講し参加するまでに数か月の待機期間を要するという新たな課題が生まれている。また、生活情報の習得についてのニーズを精査すると、緊急時よりも日常的に使う機会が多い場面での情報を求めていることも多かった。日本語教室のカリキュラムについては、外国人のニーズに合わせて改善する必要がある。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	①地域在住の外国人が日本語能力を身につけると共に、地域生活の情報、ルールを習得する「日本語教室」(対象者及び目的の異なる2つのコース)を実施した。 1つ目に、ほとんど日本語が話せない外国人が最低限の日本語能力を身につけることを目的とした基礎コースを実施した。前述の課題解決のため、元々2期だったものを3期実施し、少しでも早く教室に参加できる機会を提供することができた。2つ目に、平成29年度に作成した生活場面の日本語教材を活用した生活場面(買い物、ごみ出し、医療機関の受診など)の会話学習と生活トレーニングの場としたコースで、昨年度実施した際の受講者のフィードバックなどを踏まえてカリキュラムを修正した上で実施した。 ゼロ初級レベルの学習者を含め、あらゆる日本語レベルの外国人が生活に必要な情報を得るための日本語コミュニケーション能力をはぐくめる学習機会を提供した。 ②日本語学習をサポートできる人材を多くはぐくむために「日本語指導ボランティア講座」を実施した。 外国人のところに寄り添うサポートを同じ地域の住民自身の手で行い、継続的かつ自律的に日本語教育が実施できるように、市民ボランティア人材を育成する。サポート人材の発掘(養成)と既にボランティアをしている人のブラッシュアップの2種類の講座を実施した。 ③平成29年度に作成した生活場面の日本語学習教材(単なる語学教材ではなく大垣での日常生活に必要な生活情報・行政情報も掲載したもの)の教え方の手引きとなる「教え方の手引き」を作成した。 生活場面の日本語を学習する教材を過去2年間に亘って作成した。その教材は、当プログラムの日本語教室での使用と、従来から実施している市民ボランティアによるマンツーマン方式の日本語学習支援(プログラム外)で使用しているが、教え方の手順や学習者がより理解を深めるための情報などを取りまとめた教案を作成することで、ボランティアが効果的に教えることができ、学習者にとってもより深い学びが得られるような教材を作成した。今後、これを元に、市民ボランティアの手で日本語支援を効果的に長期的にこの地域に暮らす外国人の日本語学習に役立つように活用する。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	伊藤 かんな	岐阜経済大学 非常勤講師
2	市橋 剛	岐阜県多文化共生推進員
3	大塚 親子	大垣市立中川小学校 教諭
4	岡本 幸	CAPCO(大垣外国人コミュニティサポートセンター)代表
5	柏谷 涼介	セントラルジャパン日本語学校 主任教員
6	桐山 知弘	大垣市まちづくり推進課 主幹
7	小寺 里香	岐阜経済大学 非常勤講師
8	所 渉子	大垣市多文化共生サポーター事業 コーディネーター
9	社本 久夫	公益財団法人大垣国際交流協会 事務局長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成31年3月9日 (土) 10:00～12:00	2時間	大垣市サイトピアセンター学習室3-3	伊藤 かんな、市橋 剛 大塚 親子、岡本 幸 柏谷 涼介、桐山 知弘 小寺 里香、所 渉子 吉安 三恵	①平成30年度の事業評価について ・全取組のアンケート結果及び視察を通して目的・目標への達成度と今後の改善点を協議した。 ②平成31年度「外国人市民のための日本語教育事業」について ・平成30年度の取組を踏まえて、日本語教室の改善点などを含めた事業計画の具体的な内容について説明した。

会議自体は、上記の1回のみであったが、事業の開始当初の7月に平成30年度の事業について、①各取組の概要及び実施状況の報告、②事業成果の検証方法(アンケート案)を各委員に送付し、内容を検討してもらい、書面で意見を回収し、その後の事業実施及びアンケート内容に反映させた。

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	大垣市、留学生への日本語教育を行っている地域の大学・日本語学校、地域在住外国人による団体、大垣市の多文化共生の取り組みのコーディネーター、岐阜県の多文化共生推進員ら、日頃から外国人に関わる取組を行っている当事者が運営委員会のメンバーに入るため、多角的かつ効果的な検討・検証ができた。 また、各機関とのネットワーク形成、抱えている外国人との共生に関する課題を共有し、各取り組みの人材や情報の活用において連携・協力をすることができた。 在住外国人による団体と共に取り組む中で、日本人目線だけでなく当事者である外国人の目線も反映させることができ、地域の課題解決に繋げることができる。なお、本事業で当協会が核になって各関係機関・団体同士で実施し、各団体がそれぞれのつながりを持ったり課題を共有したりすることで、今後地域全体として多文化のまちづくりを実現する能力を向上させることができた。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	当地域の「生活者としての外国人」に関連する主な関係機関・団体に所属する人が運営委員会に入り、そのうち3人が事業の中核メンバーとして事業を推進していく体制で実施した。日本語教育の専門機関であり、且つ大垣市行政とも複数の事業で既に連携・協力体制にある岐阜経済大学に所属する人がコーディネーターとなり、行政・日本語教育機関・事業実施主体の各々との連携ができた。 各機関・団体の役割としては、当協会はこれまでに培ってきた外国人支援の実績から外国人への学習機会の周知やボランティアの募集を中核的に行い、長年地域の日本語教育に携わり、且つ過去2年間の本事業のコーディネーター経験者がコーディネーターとして地域の外国人の実情に即した教育プログラムを作成し、日本語教育機関が日本語学習の指導技術を提供・連携し、それぞれの専門性を活かした実施体制を作ること、参加者に受け入れられやすい事業を行うことができた。
----------	---

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称：外国人市民のための日本語教室 ①「基礎コース」】										
目的・目標	・地域で暮らすために必要な情報を得て、地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語の習得を目指す。 ①日常生活で使う簡単な表現であれば理解でき、言うことができる。 ②やさしい日本語で会話ができる。									
内容の詳細	<コースとカリキュラム> ・「自分のことを伝える」を大きなテーマとしたカリキュラム(地域の住民との人間関係のきっかけを作り、受け入れてもらうため)で実施した。具体的には自分自身のこと、家族のこと、自国のことなどについて会話ができるような日本語表現と、基礎文型の学習をした。 ・3回学習ごとに復習回を入れ、振り返りによる学習内容の定着を図るとともに、学習者自身が習得状況を把握し自発的に目標や計画を立てられるよう導いた。 ・会話が中心の教室であるが、ひらがなの読み書きを学ぶ文字学習も行った。(冒頭15分間) ・スピーチ発表:最終回に、今まで習ったことを使って受講者が簡単なスピーチを、自らの学習の成果が見え、また日本語を話すことに自信を持つことができた。 <指導者アシスタントの参加> ・各回3人程度の日本語指導ボランティア(日本語指導ボランティア講座受講者など)がアシスタントとして参加して、グループワークの主導、会話練習の相手役、発音のチェックなど指導者のサポートをした。(謝金の発生なし) <託児の実施> ・子育て世代の外国人の学習環境を整えるため、日本語教室の実施に併せて託児室を開設した。託児の利用実績は11人(のべ61人)。1期:4人(延べ16人)、2期:4人(延べ21人)、3期:3人(延べ24人) <コーディネーターの設置> ・事業全体のコーディネーターとは別途、日本語教育の部分のみをコーディネートするコーディネーターを設置した。教室のカリキュラム作成、教材の選定・作成、講師の調整およびカリキュラムの伝達、各回の引継ぎ連絡等をした。 <事業の再委託> ・年間を通して安定した日本語教室の実施のために、地域の日本語学校に再委託した。									
実施期間	1期:平成30年5月13日(日)～平成30年7月29日(日) 2期:平成30年8月12日(日)～平成30年10月28日(日) 3期:平成30年11月11日(日)～平成31年2月3日(日) 【各期全12回】				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 34回 = 68時間 (12回×3期の全36回(72時間)で実施したが、台風のため2回中止した)			
対象者	ゼロ初級レベル(日本語での意思疎通がほとんどできない人)				参加者		総数 108人 (受講者 76人(1期:25人、2期:26人、3期25人)、 指導者:9人、支援者(アシスタント)23人)			
カリキュラム案活用	・「Ⅶ 人とかかわる」の自己紹介、母国や家族の紹介 ・「Ⅷ 社会の一員となる」の日程や場所の把握 の内容を中心に活用した。									
使用した教材・リソース	日本語教室コーディネーター作成のプリント、スライド資料									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	10人(1期:3、 2期:5、3期:2)		22人(1期:8、 2期:13、3期:1)	19人(1期:5、 2期:1、3期:13)			6人(1期:0、2 期:4、3期:2)	1人(1期:1、2 期:0、3期:0)	6人(1期:1、2 期:1、3期:4)	
	マレーシア(2人(1期:0、2期:0、3期:2))、パキスタン(4人(1期:4、2期:0、3期:0))、米国(3人(1期:2、2期:0、3期:1))、 ラオス(1人(1期:1、2期:0、3期:0))、スリランカ(2人(1期:0、2期:2、3期:0))									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	〈1期〉 平成30年5月13日(日) 9:30～11:30	2	大垣市セントピアセンター男女共同参画活動室	16	自己紹介	初めて会った人に自分の基本情報、日本に来た理由を伝えるための、名前、出身国、住所、日本に来た理由を伝える語彙、表現の学習		川部 淳子	〈補助者〉今井 啓、伊藤 祥、村北 嘉子	
2	平成30年5月20日(日) 9:30～11:30	2	大垣市セントピアセンター男女共同参画活動室	13	会社・学校・職業など、職業、立場を伝える	初めて会った人に自分の職業、立場などを伝えるための、「今何をしていますか」や「仕事はどうですか」の問いに答えられる学習		武山 量昭	〈補助者〉岡田 千栄子、大橋 節子、西脇 聖夫、北村 俊裕 〈保育〉川崎 清美、日比 美登利	
3	平成30年5月27日(日) 9:30～11:30	2	大垣市セントピアセンター男女共同参画活動室	11	休日・趣味について伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友人関係のきっかけを作るための、「休みは何曜日ですか」や「休みの日は何をしていますか」の問いに答えられる学習		岩井 実里	〈補助者〉市橋 剛、中村 佐和子、北村 俊裕、山下 富美子 〈保育〉日比 美登利、山田 あつみ	
4	平成30年6月3日(日) 9:30～11:30	2	大垣市セントピアセンター男女共同参画活動室	12	1～3回の復習(1期1～3回)	1～3回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにした。名刺を作成し、名前・国・住んでいるところ・日本に来た理由を話す活動をした		高木 みき	〈補助者〉今井 啓、林 光子、加藤 真臣 〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ子	
5	平成30年6月10日(日) 9:30～11:30	2	大垣市セントピアセンター男女共同参画活動室	15	家族の構成、簡単な紹介をする	「家族は〇人です」、「子どもは〇歳です」、「子どもは小学校に行っています」など、家族の基本的な情報を伝える語彙、表現の学習		佐藤幹樹子	〈補助者〉岡田 千栄子、北村 俊裕、加藤 園子 〈保育〉川崎 清美、山田 あつみ	
6	平成30年6月17日(日) 9:30～11:30	2	大垣市セントピアセンター男女共同参画活動室	13	家族の性格を伝える	「性格のことは」「好きなこと」「嫌いなこと」「上手なこと」など、人の内面的な情報を伝える語彙、表現の学習		高木 みき	〈補助者〉澤井 望、伊藤 祥、山下 富美子 〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ子	

7	平成30年6月24日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	16	記念日、思い出などを伝える	「誕生日はいつか」の問いに答える日時・日付の表現や、「(記念日)に(人)に〇〇をもらいました」「あげました」など授受表現の学習	金子 由真	〈補助者〉岡田 千栄子、今井 啓、伊藤 祥 〈保育〉三輪 みよ子、山田 あつみ
8	平成30年7月1日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	13	5～7回の復習 (1期の5～7回)	5～7回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、家族の職業や性格など、家族を紹介する表現を使えるようにする学習	高木 みき	〈補助者〉市橋 剛、伊藤 祥、林 光子 〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ子
9	平成30年7月8日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	12	母国について伝える①	位置、方角、「日本の〇倍」、人口など、自分の国の情報を説明する語彙、表現の学習	岩田 篤典	〈補助者〉中村 佐和子、北村 俊裕 〈保育〉川崎 清美、山田 あつみ
10	平成30年7月15日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	3	母国について伝える②	自分の国の特徴について簡単に伝えることができるよう「どんな国か」や「何が有名か」の問いに答えられる学習	山本 恭輔	〈補助者〉岡田 千栄子、今井 啓、中村 佐和子 〈保育〉川崎 清美、日比 美登利
11	平成30年7月22日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	7	母国について伝える③	自分の国の食文化について簡単に伝えることができるよう「どんな料理が有名か」や「何をよく食べるか」という問いに答えられる学習	川部 淳子	〈補助者〉市橋 剛、今井 啓、伊藤 祥 〈保育〉三輪 みよ子、山田 あつみ
	平成30年7月29日(日)	台風のため実施なし						
12	〈2期〉 平成30年8月12日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	6	自己紹介	初めて会った人に自分の基本情報、日本にきた理由を伝えるための、名前、出身国、住所、日本にきた理由を伝える語彙、表現の学習	川部 淳子	〈補助者〉岡田 千栄子、今井 啓、伊藤 祥、種田 良隆 〈保育〉三輪 みよ子、山田 あつみ
13	平成30年8月19日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	11	会社・学校・職業など、職業、立場を伝える	初めて会った人に自分の職業、立場などを伝えるための、「今何をしていますか」や「仕事はどうですか」の問いに答えられる学習	武山 量昭	〈補助者〉林 光子、山田 有香 〈保育〉川崎 清美、三輪 みよ子
14	平成30年8月26日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	13	休日・趣味について伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友人関係のきっかけを作るための、「休みは何曜日ですか」や「休みの日は何をしていますか」の問いに答えられる学習	山本 恭輔	〈補助者〉市橋 剛、西脇 聖夫 〈保育〉川崎 清美、日比 美登利
15	平成30年9月2日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	13	12～14回の復習 (2期1～3回)	1～3回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにした。名刺を作成し、名前・国・住んでいるところ・日本にきた理由を話す活動をした	岩井 実里	〈補助者〉伊藤 祥、林 光子、古田 有果 〈保育〉日比 美登利、山田 あつみ
16	平成30年9月9日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	13	家族の構成、簡単な紹介をする	「家族は〇人です」、「子どもは〇歳です」、「子どもは小学校に行っています」など、家族の基本的な情報を伝える語彙、表現の学習	金子 由真	〈補助者〉岡田 千栄子、市橋 剛、今井 啓 〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ子
17	平成30年9月16日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンターかがやき活動室6-2	16	家族の性格を伝える	「性格のことは」「好きなこと」「嫌いなこと」「上手なこと」など、人の内面的な情報を伝える語彙、表現の学習	高木 みき	〈補助者〉今井 啓、伊藤 祥 〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ子
18	平成30年9月23日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	13	記念日、思い出などを伝える	「誕生日はいつか」の問いに答える日時・日付の表現や、「(記念日)に(人)に〇〇をもらいました」「あげました」など授受表現の学習	今枝 里帆	〈補助者〉岡田 千栄子、西脇 聖夫、古田 有果、高田 ゆう子 〈保育〉日比 美登利、山田 あつみ
	平成30年9月30日(日)	台風のため実施なし						
19	平成30年10月7日(日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	14	母国について伝える①	位置、方角、「日本の〇倍」、人口など、自分の国の情報を説明する語彙、表現の学習	高木 みき	〈補助者〉市橋 剛、林 光子、高田 ゆう子 〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ子
20	平成30年10月14日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	14	母国について伝える②	自分の国の特徴について簡単に伝えることができるよう「どんな国か」や「何が有名か」の問いに答えられる学習	佐藤幹樹子	〈補助者〉市橋 剛、伊藤 祥、古田 有果 〈保育〉川崎 清美、山田 あつみ
21	平成30年10月21日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	16	母国について伝える③	自分の国の食文化について簡単に伝えることができるよう「どんな料理が有名か」や「何をよく食べるか」という問いに答えられる学習	川部 淳子	〈補助者〉岡田 千栄子、伊藤 祥、伊藤 由美子 〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ子
22	平成30年10月28日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	16	全体の復習・まとめ	総復習。今まで学習したことを用い、自分の名前、国の紹介をグループ内で発表し合う活動	岩井 実里	〈補助者〉今井 啓、古田 有果、高田 ゆう子 〈保育〉日比 美登利、山田 あつみ
23	〈3期〉 平成30年11月11日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市ストピアセンター男女共同参画活動室	19	自己紹介	初めて会った人に自分の基本情報、日本にきた理由を伝えるための、名前、出身国、住所、日本にきた理由を伝える語彙、表現の学習	川部 淳子	〈補助者〉伊藤 祥、廣瀬 卓哉、吉倉 公恵

24	平成30年11月18日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ターかがや き活動室6- 2	20	会社・学校・職業な ど、職業、立場を伝 える	初めて会った人に自分の職業、立場な どを伝えるための、「今何をしています か」や「仕事はどうか」の問いに答 えられる学習	武山 量昭	(補助者)岡田 千栄子、林 光 子、高田 ゆう子 (保育)川崎 清美、山田 あつみ
25	平成30年11月25日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	9	休日・趣味につい て伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友 人関係のきっかけを作るための、「休み は何曜日ですか」や「休みの日は何を していますか」の問いに答えられる学習	岩井 実里	(補助者)市橋 剛、伊藤 祥、今 井 啓 (保育)日比 美登利、山田 あつ み
26	平成30年12月2日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	11	23～25回の復習 (3期1～3回)	1～3回の内容を復習し定着を図るとと もに、習った構文を続けて話せるよう にした。名刺を作成し、名前・国・住 んでいるところ・日本に来た理由を 話す活動をした	高木 みき	(補助者)西脇 聖夫、古田 有 果、加藤 恵理 (保育)日比 美登利、三輪 みよ 子
27	平成30年12月9日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	15	家族の構成、簡単 な紹介をする	「家族は〇人です」、「子どもは〇歳 です」、「子どもは小学校に行ってい ます」など、家族の基本的な情報を 伝える語彙、表現の学習	金子 由真	(補助者)岡田 千栄子、市橋 剛、林 光子 (保育)日比 美登利、三輪 みよ 子
28	平成30年12月16日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	8	家族の性格を伝え る	「性格のことは」「好きなこと」「嫌 いなこと」「上手なこと」など、人の 内面的な情報を伝える語彙、表現の 学習	岩田 篤典	(補助者)伊藤 祥、大橋 節子、 高田 ゆう子、松田 東司 (保育)川崎 清美、日比 美登利
29	平成30年12月23日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	12	記念日、思い出な どを伝える	「誕生日はいつか」の問いに答える 日時・日付の表現や、「(記念日)に(人) に〇〇をもらいました」「あげまし た」など授受表現の学習	今枝 里帆	(補助者)今井 啓、伊藤 祥、古 田 有果 (保育)川崎 清美、三輪 みよ子
30	平成30年1月6日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	8	27～29回の復習 (3期の5～7回)	5～7回の内容を復習し定着を図るとと もに、習った構文を続けて話せるよう にすることで、家族の職業や性格な ど、家族を紹介する表現を使えるよ うにする学習	高木 みき	(補助者)岡田 千栄子、伊藤 祥、西脇 聖夫 (保育)三輪 みよ子、山田 あつ み
31	平成30年1月13日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	12	母国について伝え る①	位置、方角、「日本の〇倍」、人口な ど、自分の国の情報を説明する語彙 、表現の学習	高木 みき	(補助者)今井 啓、林 光子、西 脇 聖夫 (保育)日比 美登利、山田 あつ み
32	平成30年1月20日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	8	母国について伝え る②	自分の国の特徴について簡単に伝え ることができるよう「どんな国か」 や「何が有名か」の問いに答えら れる学習	佐藤幹樹子	(補助者)岡田 千栄子、伊藤 祥 (保育)日比 美登利、山田 あつ み
33	平成30年1月27日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	11	母国について伝え る③	自分の国の食文化について簡単に 伝えることができるよう「どんな料 理が有名か」や「何をよく食べるか」 という問いに答えられる学習	川部 淳子	(補助者)今井 啓、西脇 聖夫、 松田 東司 (保育)川崎 清美、三輪 みよ子
34	平成30年2月3日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	8	全体の復習・まと め	総復習。今まで学習したことを用い 、自分の名前、国の紹介などを1人 ずつスピーチを行い、学んだことの 総確認	岩井 実里	(補助者)今井 啓、古田 有果、 松田 東司 (保育)三輪 みよ子、山田 あつ み

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回(1期の1回目) 平成30年5月13日】

①ひらがな指導(あ行)

スライドを使い、書き順を提示し、プリントで練習。

②「国の名前」「わたし」「住んでいる場所」「来日の理由」のことばと表現を、スライドを使い、絵や学習者の母語も使用して学習。

③「国はどこですか」「どうして日本に来ましたか」の発話をグループで練習。

④コミュニケーション練習

・ここまでで提示した文をつなげて、グループを超えて会話練習。

⑤ふりかえり

・語彙の復習、「ふりかえりシート(学習した表現や文型を記入する)」の記入を行った。

・1回目であったが、グループを超えて練習の輪が広がった。6カ国からの学習者が受講したが、アシスタントのサポートもあり、日本語がほとんどわからない学習者も楽しく参加できた。受講者同士の会話も活発で、学習者の意欲の高さが見られた。

○取組事例②

【第14回(2期の3回目) 平成30年8月26日】

①ひらがな指導「さ行」

②「休みは何曜日ですか」「休みは○曜日です」「休みの日は何をしていますか」「休みの日は、よく～～しています。(～へ行きます)」「○時から～しています」

・これらの表現と、曜日の言い方、疑問文の作り方などの学習

・グループで練習。例えば、「子どもと公園へ行きます」「ゲームをしています」など

自分の休みについて話す練習

③ふりかえりシートの記入

・受講者間で、上手く言えない人へのフォローや、最後まで言えた時には拍手が起こるなど、とてもよい雰囲気であった。

・受講者のうち、よく理解している人が、指導者とのモデル会話に協力したり、他の受講者に教える様子もあった。

○取組事例③

【第34回(3期の12回目) 平成31年2月3日】

①ひらがな、促音、拗音

②6～11回の復習

・国の名前、位置、大きさを表現する語彙、表現の練習

③総復習

・1回目から学んだことの復習をし、その後、個人で練習。

・最後に、1人ずつ発表。12回で学んだことを繋げて、1人1～2分のまとまりのあるスピーチになった。

④修了証授与

・第3期の最終回ということもあり、これまでの復習を主な活動として行った。また、最後の修了証を渡す場面では、「ありがとうございます」と言うなど、実際の場面での日本語コミュニケーションの力がついたようだ。

・まとめの回ということで、指導者からのフォローは最低限にし、学習者の自発的な活動を見守る方針で進めた。

文字の読み書きが出来ない人も視覚で理解できるように、イラストなどを入れたスライドを使った学習とグループに分かれて座る様子



受講者同士、またはアシスタントも交えた会話の練習の様子



託児



各期最終回到した修了証



(2) 目標の達成状況・成果

・目標が達成できているかの検証のために、アンケートを実施した。

・「この教室にきて、あなたの日本語は まえより 上手になったと思いますか？」に対し、アンケートに回答したほとんど全員が、「上手になったと思う」または「まあまあ上手になったと思う」と回答している。このことから、教室に参加したことにより日本語の習得ができたと考えられる。

・「この教室にくるまえよりも、日本での生活ができるようになったと思いますか？」に対し、アンケートに回答したほとんど全員が、「できるようになったと思う」または「少しできるようになったと思う」と回答している。このことから、教室に参加したことにより生活がしやすくなり、目標にある「地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語を習得する」ことができる機会になったと考える。

・昨年度からの変更として、期の数を2から3回に増やしたが、受講希望者はキャンセル待ちが出るほど多くいた。より多くの人への学習機会ができ、地域在住の外国人が日本語能力を身につける機会を提供することができたと考えられる。

(3) 今後の改善点について

・受講資格には明確な基準がないため日本語レベルの差が大きく、途中で学習をやめる人や、逆に簡単すぎると感じた学習者がいたようで、特に後半になると、休みがちになる学習者がいた。来なくなる学習者に対するフォローとして、理由を聞き改善できる(すべき)点を把握する必要がある。

・文字の読み書きの時間は、「あ行」「か行」など五十音順に「あたま」「いす」など、日常生活でよく使う語彙の読み書きを行った。しかし、自分の名前が書けない学習者もいる。まずは自分の名前や住所など必ず書かなければいけないことをまずは書けるように練習するなど、必要なことの優先順位をつけて学べるようにカリキュラムの改善が必要だと感じた。

日本語教育の実施【活動の名称：外国人市民のための日本語教室 ②「せいかつのにほんごクラス」】										
目的・目標	・地域で暮らすために必要な情報を得て、地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語の習得を目指す。 ・日本語を使って安全で自立した生活ができるようにするため、生活で遭遇する場面で必要な情報を得られるよう自ら尋ねることや、必要な状況や要求を伝えることができるようにする。									
内容の詳細	・日常生活で直面する場面の生活情報・語彙などを学習する活動を行った。 ・具体的には、平成29年度に作成した教材を使用して次の6テーマを扱った。 ・1回完結型で開催(病院と災害のみ2回完結型)。 ①「病院」:病院をテーマに次の3つのことを学んだ(1.体調が悪いときに隣人により病院を尋ねる、2.病院の予約・受付、3.医者 の診察)。それぞれの場面で必要な言葉、表現、そして夜間診療の情報など。 ②「買い物」:買い物のときに、お店の人に尋ねる表現などを学習し、ロールプレイで練習した。 ③「ゴミ出し」:ゴミの出し方を近所の人に尋ねる表現やごみの種類の語彙、分別活動を通して気をつけることを伝えた。 ④「災害」:災害に関する語彙や表現、地震や水害(この地域で発生する確率が高い)についての語彙やその時の対処、避難場所の確認、日頃の準備などについて伝えた。 ⑤「道を聞く」:道を尋ねる時や説明をする時によく使われる表現や交通標識を学習した。 ⑥「電話をかける」:電話の際の表現・語彙を練習した。 ＜託児の実施＞ ・前述コースと同様、託児室を開設。託児の利用実績は1人(のべ7人)。									
実施期間	平成30年8月5日(日)～平成30年9月23日(日)				授業時間・コマ数	1回 2時間 × 8回 = 16時間				
対象者	生活場面の日本語及び情報の習得が必要な外国人(日本語レベルは問わない)				参加者	総数 26人 (受講者 23人、指導者:3人)				
カリキュラム案活用	・「Ⅰ 健康・安全に暮らす」の「医療機関の受診」、「災害に備え、対応する」 ・「Ⅱ 消費行動を行う」の「物品購入・サービスを利用する」 ・「Ⅳ 目的に移動する」の「徒歩で移動する」 ・「Ⅷ 社会の一員となる」の「ゴミ出し」 ・「Ⅹ 情報を収集・発信する」の「電話を掛ける」の箇所を活用した。									
使用した教材・リソース	平成29年度に作成した教材「やさしいせいかつのにほんご～はなしましよ!～」(各テーマのページ)、スライド資料 ゴミの分け方・出し方パンフレット(大垣市作成)、災害ガイドブック(大垣市作成)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
	6人		3人	8人				1人		
	スリランカ(2人)、米国(1人)、ラオス(1人)、パキスタン(1人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年8月5日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-1	9	病院	身体 の部位、診療科の種類、病状など の言葉を学習し、「熱があるんですが、 どこの病院がいいですか」や「すみませ ん、〇〇してください」などが伝えられる 学習		伊藤かんな	〈保育〉日比 美登利	
2	平成30年8月12日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-1	8	病院	病院の受診の際のやりとりの活動。問 診票に書いてあることを学習し、医者か らの質問に答える学習		伊藤かんな	〈保育〉三輪 みよ子、山田 あつ み ※2回目以降の保育は、日本語 教室「基礎コース」の託児と併せ て実施	
3	平成30年8月19日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-1	12	買い物	店で色違いなど欲しいものを聞くことと 試着をしてよいか尋ねる表現の学習と、 レストランで注文をする際の受け答えの 表現の学習		小寺 里香	〈保育〉川崎 清美、三輪 みよ子	
4	平成30年8月26日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ターかがや き活動室6- 2	12	ごみ出し	ごみの種類の言葉、ごみの分別活動を行 い、市の職員による指導、近所の人 にごみの出し方を尋ねる表現の学習		小寺 里香 大垣市ク リーンセン ター職員	〈保育〉川崎 清美、日比 美登利	
5	平成30年9月2日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-1	14	災害(地震)	「警報」「地震」「震度」など地震災害に関 することばや表現の学習、市の職員に よる防災や地震の際にとるべき行動の 指導、避難所の確認		伊藤かんな 大垣市生活 安全課(災 害)職員	〈保育〉日比 美登利、山田 あつ み	
6	平成30年9月9日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-1	10	災害(気象災害)	「大雨警報」「暴風」など気象災害に関す ることばや表現の学習、水害時の避難 所、非常持ち出し袋などの情報提供		伊藤かんな 大垣市生活 安全課(災 害)職員	〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ 子	
7	平成30年9月16日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-1	12	道を聞く	目的地までの行き方を尋ねる表現と交 通ルールや交通標識の学習		宮本 正美	〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ 子	
8	平成30年9月23日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-1	12	電話をかける	電話の受け答えの活動。市役所に電話 して通訳をお願いする場面と会社に電 話をして休むことを伝える場面の学習		宮本 正美	〈保育〉日比 美登利、山田 あつ み	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成30年8月5日】

- ①テーマ(病院)の説明、イメージ作り(具体的には「日本で病院へ行ったことがありますか」「病気になった時どうしますか」など)
- ②体の部位の語彙、病状の語彙や表現の学習(体・顔のイラストシートを配布し、語彙を学習(目、鼻、肩、指 など))
- ③病院の名称の学習
病院の診療科(外科、耳鼻科、小児科 など)の語彙を学習。
- ④病院の予約をする表現の学習とペアで練習
- ④病気の名称の学習
様々な病気の表現(痛い、かゆい、ガンガンする、やけど、手が震える など)を学習。
その後、学習者同士ペアになり、「〇〇が痛い」などの表現の練習。
- ⑤会話練習
病気の症状を伝え、どこの病院がいいのかを近所の人に尋ねる、というロールプレイを実施。適宜ペアを入れ替えて繰り返し練習をした。

○取組事例②

【第4回 平成30年8月26日】

- ①テーマ(ゴミ出し)の説明、イメージ作り
- ②ゴミのサンプル(ビニール、紙、ペットボトル、トレイ、電池など)、ゴミ捨て場に実際に設置してある入れ物を用意し、分別活動
その後、市職員がゴミ分別の確認と指導をした。
- ③語彙(ゴミ、洗う、持っていく など)や表現(「ゴミはどこに捨てたらいいですか」など)を学習しグループ練習
- ④ゴミの種類やゴミを出す曜日などの確認
- ⑤まとめ
「どうやって」「いつ」「どこに」捨てたらよいかを聞く表現を学び、ゴミの種類や分け方の復習をした。

ごみの分別活動



○取組事例③

【第5回 平成30年9月3日】

- ①テーマ(災害)の説明、イメージ作り
- ②「震度6強体験シミュレーション」で地震が起こった時とその後の行動をイメージしてもらい、教室を家に見立て「火を消す」「机の下に入る」などの動きと表現を練習。
- ③災害に関する語彙や、防災についての知識を提示し、「～かもしれません。～ておいたほうがいいです。」という文型を学習。
- ④一時避難場所および避難所や、震度について学習。防災ガイドブックを使って市の職員や指導者と共に各自、自分の住んでいる地域の避難所を確認(写真参照)。
- ⑤避難所の様子を紹介。避難所で必要なものを、前述の文型を用いながら確認。

避難所の場所を確認



(2) 目標の達成状況・成果

- ・目標が達成できているかの検証のために、アンケートを実施した。
- ・「この教室にきて、あなたの日本語は まえより上手になったと思いますか？」に対し、「変わらない」の回答もあったが、ほとんどの学習者が「上手になったと思う」または「まあまあ上手になったと思う」と答えた。教室に参加したことで、日本語の習得に繋がったと考える。
- ・「この教室にくる まえよりも、日本での生活が出来るようになったと思いますか？」に対し、「できるようになったと思う」または「少しできるようになったと思う」の回答がほとんどであった。このことから、目標にある「地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語を習得する」ことができた機会になったと考える。特にこのコースは生活場面の内容を行ったため、様々な生活場面において安心して暮らすことに繋がったと考える。
- ・実際の生活場面を想定して、この学習を通して何ができるようになるかを考えたカリキュラムとしたため、生活のトレーニングの場としての役割も持つことができた。

(3) 今後の改善点について

- ・昨年度からの改善点として、病院、110番・119番通報を学ぶ「緊急時会話コース」と生活場面の日本語を学ぶ「生活情報習得クラス」の違いが分かりにくいということがあり、一つのコースにして、扱うテーマについても再考して実施した。「テーマが役に立った」などのアンケート結果からも満足度が高かった人も多かったが、「教室にあまりまんぞくしていない」という回答もあった。テーマやレベルを含めて生活場面でのコミュニケーション能力を身につけられる内容を検討していく。また、学びたいテーマを選んだ受講も可能な中、1回だけの参加の人からの満足度を計ることが難しいため、アンケートの取り方や内容を検討する必要がある。
- ・テーマに興味はあるもの、その中で学びたいニーズと実際が違ったという意見もあった。申込の際に、そのテーマの中で何に困っているのか、どんなことが知りたいのか、ニーズ把握をして可能な中で教室活動に入れるなどしていくことも必要だと感じた。
- ・対象者は日本語レベルを問わず生活情報の習得が必要な人としたが、日本語レベルの開きが大きかったことと、テーマに関する語彙がほとんど分からない受講者だと難しい印象で終わってしまうように感じられた。「基礎コース」のようなアシスタント制度を導入し、学習者を適宜サポートできる体制も必要だと感じた。学習のサポートにもなるが、学習者間のつながり作りにもつながるため、検討していく。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:日本語指導ボランティア講座「①養成編」】

目的・目標	地域住民を対象として、新しく日本語支援者となる人材を育成し、より多くの外国人が日本語の支援を得られる環境を作ること、現在活動している人が支援している中で持つ不安や疑問を解決し、より効果的に且つ継続した支援ができる体制を作る。 その中で、サポートに必要な知識の習得を行うとともに、外国人と日常的に関わる地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方に関する理解を促す。									
内容の詳細	・日本語学習支援を継続する中で、日本語学習希望者に対して、支援できるボランティアが不足している状況が続いている。そのため、ボランティア人材の育成のため、サポートに必要な知識の習得ができる講座を実施した。 ・日本語の支援に必要な知識に加えて、継続的な支援のために外国人に対する意識や多文化共生の考え方に理解をしてもらうこと、実際の活動(支援)を体験し触れてもらう日本語教室の見学という内容で実施した。 ・5回講座を計2期実施したが、同じ内容で実施した。 1.大垣市外国人の現状、多文化共生とは、大垣市の取組、日本語学習支援事業について(1回) 2.日本語支援者に必要とされる能力・資質、日本語教え方の講義と平成29年度の作成した教材を使用した教え方の実践(3回) 3.日本語教室の見学(1回)									
実施期間	1期:平成30年7月27日(金)～平成30年9月28日(金) 2期:平成30年11月9日(金)～平成30年12月7日(金) 【各期全5回】			授業時間・コマ数		1回 2時間 × 10回(5回×2期) = 20時間				
対象者	日本語学習支援、多文化共生に興味のある市民など 未経験者			参加者		総数 31人 (受講者 29人, 講師 2人)				
カリキュラム案活用	Can-do-statementを通して、生活場面で使える日本語を教える方法を考えるため、カリキュラム案の「生活上の行為の事例」を活用した。									
使用した教材・リソース	講師作成のスライド資料、平成29年度に作成した学習教材「やさしいせいかつのにほんご～はなしましよ～」									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										29人 (1期:17、2期:12)

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	〈1期〉 平成30年7月27日(金) 10:00～12:00	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	16	在住外国人の状況、多文化共生について	大垣市在住外国人の現況、多文化共生に関するアンケート結果等から、日本語学習支援の必要性を考え、日本語学習支援などの取組を紹介し、多文化共生に関する理解を促した。	桐山 知弘	なし
2	平成30年8月17日(金) 10:00～12:00	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	15	日本語支援とは？	日本語を教えるとは？ 外国人にとって分かりやすい日本語とは？(やさしい日本語)について考えた。	柏谷 涼介	なし
3	平成30年8月19日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	11	日本語教室見学	日本語教室アシスタント人材の育成のために、「日本語教室基礎コース」を含めた日本語学習支援の各種取組の様子を見学し、役割や外国人との接し方などを見学した	柏谷 涼介	なし
4	平成30年8月31日(金) 10:00～12:00	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	12	コミュニケーションの日本語とは？	語彙や文法を学習者に説明する方法について考えた。生活で使える日本語を教えるために、can-do(何ができるか)について考え、そのためにはどのように教えたらいのかを考えた	柏谷 涼介	なし
5	平成30年9月28日(金) 10:00～12:00	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	9	日本語支援の実践をしてみよう	平成29年度に作成した日本語教材の「病院へ行く」の課を使用して、教え方の実践を行った。教え方のモデル例を示した	柏谷 涼介	なし
6	〈2期〉 平成30年11月9日(金) 18:30～20:30	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	10	在住外国人の状況、多文化共生について	大垣市在住外国人の現況、多文化共生に関するアンケート結果等から、日本語学習支援の必要性を考え、日本語学習支援などの取組を紹介し、多文化共生に関する理解を促した。	桐山 知弘	なし
7	平成30年11月16日(金) 18:30～20:30	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	9	日本語支援とは？	日本語を教えるとは？ 外国人にとって分かりやすい日本語とは？(やさしい日本語)について考えた。	柏谷 涼介	なし
8	平成30年11月18日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター自治会室	7	日本語教室見学	日本語教室アシスタント人材の育成のために、「日本語教室基礎コース」を含めた日本語学習支援の各種取組の様子を見学し、役割や外国人との接し方などを見学した	柏谷 涼介	なし
9	平成30年11月30日(金) 18:30～20:30	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	9	コミュニケーションの日本語とは？	語彙や文法を学習者に説明する方法について考えた。生活で使える日本語を教えるために、can-do(何ができるか)について考え、そのためにはどのように教えたらいのかを考えた。	柏谷 涼介	なし

10	平成30年12月7日(金) 18:30~20:30	2	大垣市サイトピアセンターかがやき活動室6-3	9	日本語支援の実践 をしてみよう	平成29年度に作成した日本語教材の「病院へ行く」の課を使用して、教え方の実践を行った。教え方のモデル例を示し、指導者と支援者のロールプレイをグループで行った。	柏谷 涼介	なし
----	------------------------------	---	------------------------	---	--------------------	---	-------	----

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回(第1期の1回目) 平成30年7月27日】

活動内容: 多文化共生について(講師: 大垣市まちづくり推進課(多文化共生係)職員)

- ・大垣市に在住する外国人の人口、国籍、在留資格等のデータから、外国人の現状を学んだ。
- ・大垣市が実施した多文化共生に関するアンケート(外国人と日本人を対象)結果から市民の意識、また外国人が困っていること、日本語の理解度などを紹介し、参加者と共に、外国人市民への日本語学習支援の必要性を考えた。
- ・多文化共生に関する大垣市の取組、日本語学習支援事業の具体的な取組を紹介し、多文化共生の考え方や日本語学習支援に関する理解を深めた。

※第2期も同内容を実施

○取組事例②

〈座学講座〉

【第2回(第1期の2回目) 平成30年8月17日】

活動内容: 日本語の教え方を考える(講師: ホツマインターナショナルスクール教務主任)

- ・教えるにあたってのヒント、外国人にとってわかりやすい日本語とは、どのように説明するとよいか、実際の生活場面で使える日本語の教え方など、支援のために必要な知識を学んだ。
- ・日本語支援の中で外国人とコミュニケーションを取るために必要となる「やさしい日本語」について学び、ある文章をやさしい日本語にする体験をグループで行った。

【第10回(第2期の5回目) 平成30年12月7日】

活動内容: 平成29年度に作成した教材を使った教え方を実践(講師: セントラル日本語学校主任教員)

- ・平成29年度に作成した日本語学習教材「やさしい せいかつのにほんご～はなしましょう!～」を使い、実際に教える体験をした。受講者4~5人のグループになり、支援者役、学習者役、観察する役に分かれて実施した。観察して感想を伝えてもらうことで、客観的分かり、実際に外国人に指導する際のヒントを持ってもらえるようにした。

講師の講義の様子



受講者で役割に分かれて教える体験のグループ活動



○取組事例③

〈日本語教室など活動の見学〉

【第8回(第2期の3回目) 平成30年11月18日】

活動内容: 日本語支援の取組(日本語教室、マンツーマン方式日本語学習支援、にほんごおしゃべりルーム(交流サロン)の見学と座学講座の続き・実際に日本語を学んでいる様子や日本語教室で活動する指導者アシスタント(グループワークの主導、会話練習の相手役、発音のチェック、指導者と共に会話モデルを示す役割を担う)の様子を見学した。

・活動の見学には主に3つの目的を持ち実施した。

- ①座学の講座で学んだ「外国人とのコミュニケーション」を指導者やアシスタントがどのような工夫をしているかを見てもらい、外国人と接したり支援したりする場合の参考にしてもらう
 - ②日本語教室のアシスタントの役割や活動の様子を見てもらい、活動に繋がる人材を育成すること
 - ③当協会で実施している日本語の全取組の中から、受講者が関わることのできる取組を見つけてもらい、支援の輪を広げること
- ・「より外国人に伝わる表現」「語彙、文法の教え方」などについての講義を受け、支援の参考にもらえるよう、見てもらうとよいポイントなどを話した上で、日本語指導者はどのような工夫をしているか見てもらった。

※第1期も同内容を実施

(2) 目標の達成状況・成果

・目標が達成できているかの検証のために、アンケートを実施した。

・アンケート【5】「このプログラムを受ける前よりも、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思いますか」に対し、ほぼ全員が「深まったと思う」または「まあまあ深まったと思う」と答えた。受講により「生活者としての外国人」に対する理解が深まり、日本語学習支援の必要性を全員が感じたことから、目標にある「地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方に関する理解を促す」一定の成果を上げることができたと考える。

・一般市民(ボランティア未登録者)が合計23人受講し、うち8人が講座受講後ボランティアに登録した(1期は14人中6人、2期は9人中2人)。新しく日本語支援者としてボランティアに登録した8人は全員、日本語教室アシスタント又は、マンツーマン方式の日本語学習支援ボランティアとして既に活動している。講座を通して外国人が日本語を習得する必要性を感じ、日本語支援に関わる結果につながったし、実践の機会があったことで、活動に踏み出すことにも繋がったと感じた。

(3) 今後の改善点について

- ・成果との裏腹になるが、ボランティアをしたことのない受講者のうち、全員が日本語支援に「関わってみたい」または「できれば関わってみたい」と答えた。一方、実際の活動に繋がった人が約半数と開きがあった。活動に繋がらない理由を把握し、活動のあり方を含め検討していく。
- ・日本語教室の見学だけにとどまらず、具体的な教え方の見本を見て見たいなどの意見もあり、今後改善できることは取り入れていく。
- ・日本語支援に興味を持っていて人が、何も講座をなしに活動することは大変ハードルがあるが、この講座が活動へのつながりになっているので、スタートしようとする人向けの講座として明確にして、「ブラッシュアップ編」との区分けをし、より実践を入れる工夫をしていきたい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:日本語指導ボランティア講座「②ブラッシュアップ編」】

目的・目標	地域住民を対象として、新しく日本語支援者となる人材を育成し、より多くの外国人が日本語の支援を得られる環境を作ることと、現在活動している人が支援している中で持つ不安や疑問を解決し、より効果的に且つ継続した支援ができる体制を作る。 その中で、サポートに必要な知識の習得を行うとともに、外国人と日常的に関わる地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方にに関する理解を促す。									
内容の詳細	・日本語指導ボランティアとして活動している人が、日頃の活動に役立つヒントを得られるような内容で実施した。 1.日本語支援者に求められる資質・能力について 2.日本語の構造(文の構造や文法の知識、音声やアクセントについて) 3.コミュニケーションのための日本語 4.支援者の発話調整、やさしい日本語について 5.昨年度作成した日本語学習教材を使った日本語支援の方法例									
実施期間	平成31年1月12日(土)～平成31年2月9日(土)				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 5回 =10時間			
対象者	当協会の日本語指導ボランティア登録者及び日本語指導ボランティア講座「養成編」受講者				参加者		総数 31人 (受講者 30人, 講師 1人)			
カリキュラム案活用	Can-do-statementを通して、生活場面で使える日本語を教える方法を考えるため、カリキュラム案の「生活上の行為の事例」を活用した									
使用した教材・リソース	講師作成のスライド資料、平成29年度に作成した学習教材「やさしいせいかつのにほんご～はなしましょう～」									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1人		1人							28人

養成・研修の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成31年1月12日(土) 14:00～16:00	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	26	日本語支援者に求められていること、日本語文の構造	「文化審議会国語分科会」の資料に基づき、日本語支援者に求められる資質・能力について「日本語の構造」についての概要	柏谷 涼介	なし	
2	平成31年1月19日(土) 14:00～16:00	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	23	日本語の構造(文法、文の構造)	前回の続きの「日本語の構造」のうち、文法の知識(格助詞、動詞、テンスなど)について	柏谷 涼介	なし	
3	平成31年1月26日(土) 14:00～16:00	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	25	日本語の構造(音声、アクセント)	日本語の音を出すときの口の中の構造やアクセントの知識について支援者の発話調整について	柏谷 涼介	なし	
4	平成31年2月2日(土) 14:00～16:00	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	23	コミュニケーションの日本語とは？	コミュニケーションをテーマに、日本語を話せることと、コミュニケーションができることの違い、そしてコミュニケーションには、どんな能力が必要かを考えた	柏谷 涼介	なし	
5	平成31年2月9日(土) 14:00～16:00	2	大垣市スイトピアセンターかがやき活動室6-3	20	支援方法の一例	平成29年度に作成した日本語教材の「仕事をする」の課を使用して、教え方のモデル例を示した	柏谷 涼介	なし	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成31年1月12日】

- ・日本語支援者に求められる資質・能力について、「文化審議会国語分科会」の資料に基づき、説明し、どのような知識や態度が求められているか、受講者と共に考えた。
- ・求められる知識の一つ「日本語の構造」について、動詞のグループや格助詞など、問題を解きながら文法を学んだ。これは、文法の知識を学び支援する際に役立てることだけでなく、日本語の複雑な作り構造を知ること、学習者がいかに複雑なことを理解して話しているかが分かり、日本語学習者への寛容さなどにつながる点もあると感じ、文法知識の練習問題なども取り入れた。



○取組事例②

【第4回 平成31年2月2日】

- ・コミュニケーションをテーマに、日本語を話せることと、コミュニケーションができることの違い、そしてコミュニケーションには、どんな能力が必要かを考えた。
- ・その中で、コミュニケーション能力を身につけることのできる具体的な方法の例を紹介した。
- ・文法を積み上げるのではなく、「～ができる」という行動目標 (can-do statements) のために必要な表現や語彙を学ぶことで、人との対話ができるようになるという説明をして、それに近い設計の教材の紹介をした。その一つとして、昨年度作成した日本語学習教材であり、5回目はその教材を使った教え方の一例を行うと繋げて終了した。

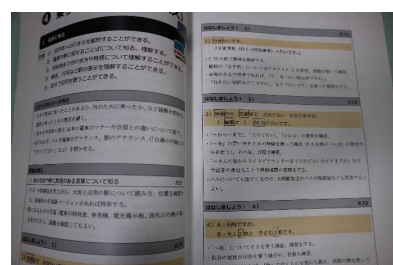
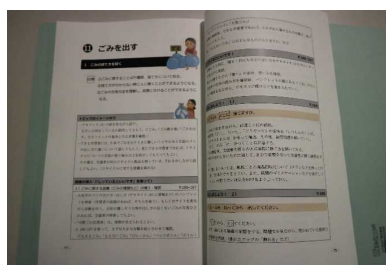
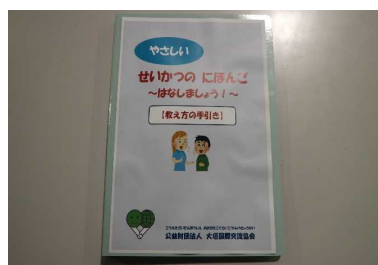
(2) 目標の達成状況・成果

- ・目標が達成できているかの検証のために、アンケートを実施した。
- ・アンケート【4】「このプログラムを受ける前よりも、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思いますか」に対し、全員が「深まったと思う」または「まあまあ深まったと思う」と答えた。受講により「生活者としての外国人」に対する理解が深まり、より今後の活動に意欲を持ったことが伺えることから、目標にある「地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方に関する理解を促す」一定の成果を上げることができたと考える。
- ・マンツーマン方式で日本語を支援するのが主たる支援であり、横のつながりも薄い中で、難しいと感じて辞めていく人がいる。そのため、このように日頃の活動の中で困っていることを解決できる機会やまた支援するために役立つ知識などを得ることで、より継続した支援活動に繋がると考える。今回の講座は、対象者を日本語指導ボランティア登録者に限った中で、全登録者の2割が受講し、今までの講座と比較すると受講率も高く、出席率も高かった。この講座を通して、こういった講座に対する要望があることも分かり、またボランティアがより活動しやすい環境を整えたことで、外国人市民の日本語学習に還元されていくと考える。

(3) 今後の改善点について

- ・初めての講座ということもあり、内容を決めるのが難しかった。また、講師も時間配分をどのようにするとよいのか試行錯誤のところがあったため、予定していた実践ができなかった。そのため難しいと感じた人がいたり、具体的な話が聞きたかったなどの意見もあったりした。来年度以降は、アンケート結果などを参考に内容を再度検討していく。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：大垣で暮らす外国人市民のためにほんご教材作成[教案作成]】			
目的・目標	・平成29年度に作成した日本語学習教材の教案(教え方の手引き)を作成する。 ・市民がボランティアとして教えているマンツーマン方式の日本語学習支援では、教え方が分からず生活場面の日本語学習に取り組めていない状況がある。平成28年度、29年度に作成の日本語学習教材を効果的に活用し外国人の日本語習得につなげるために、教える人がより有効な教え方を習得し、また学ばせることができるように教案教材(教え方の手引き)を作成する。		
内容の詳細	平成29年度作成の日本語学習教材の教案教材(教え方の手引き)を作った。 日本語学習教材を使う対象者は外国人であるが、その学習の主な支援者となるボランティアが経験の有無に関係なく誰でも効果的に教え、学ばせることができるような教案教材を作った。当協会では、日本語教室のほかに、100人以上のボランティア支援者によるマンツーマン方式の支援活動をしているが、指導方法は各ボランティアに一任しているため、個々の支援者・学習者によって内容やすすめ方にも大きな差があるのが現状である。また、無償ボランティアにとって学習の準備をすることが負担になっている面がある。それを改善するため、学習教材とセットの教案を作成し提示することで、支援しやすく、また学習者にとっても一定以上の効果が期待できることを見込んで作成した。 ＜教案教材概要＞ ・A4サイズ、総ページ数85ページで、平成29年度に作成した日本語学習教材「やさしい せいかつの にほんご ～はなしましゅう！～」の教え方の手引き。 ・日本語学習教材自体は、標準的なカリキュラム案の「生活上の行為の事例の整理」のうち、基本的な生活基盤を形成するため、又は安全にかかわり緊急性があるため情報として知っておく必要があると考えられている項目を中心とした教材で、大垣地域で暮らす外国人の生活場面や行為での会話表現・語彙が学べる教材。 ・生活場面ごとに、その場面で必要とされる会話や語彙、生活情報を入れた教材であり、マンツーマン方式日本語学習支援でも活用している。その中で、準備の時間が十分取れないことに加えて、支援の経験が様々な支援者(無償ボランティアを想定)が、その経験や知識に関わらずより効果的な学習の支援ができる一つの案として、準備や手順などを示した。 ・学習教材では示していないが、「その課を学ぶことで何ができるようになるか」という行動目標(can do)を入れ、支援する人が何を目標とした学習か、意識できるようにした。 ・教材は、「会話」「語彙」「文型の練習」「生活情報」という順番になっているが、よりテーマを理解し、また学習者の発話が多くなるように、そして意味を理解した上で学習ができるような手順を示した。 ・場面のイメージ作り、必要な文型や語彙、会話練習を進められるようにし、学習者に応じて応用(工夫)もできるような解説を入れた。 ●教材の構成 ①自己紹介をする、②市役所/国際交流協会、③買い物をする、④乗り物に乗る、⑤学校へ通う、⑥病院へ行く、⑦110番・119番に電話する、⑧災害のとき(台風・大雨・地震)、⑨道を聞く、⑩仕事をする、⑪ごみを出す		
実施期間	平成30年5月24日～平成31年2月28日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 30回 = 60時間
対象者	教案教材を使用する対象者は日本語指導ボランティア。学習教材は、日本語(ルビ、ローマ字付き)で書かれた教材で学習者の母語を限定しないが、語彙や会話表現は翻訳(英語、中国語、ポルトガル語、ベトナム語)が入っている。	教材の頁数	85ページ
カリキュラム案活用	・「標準的なカリキュラム案(文化審議会国語分科会)」の「生活上の行為の事例の整理」を参考に、基本的な生活基盤の形成、安全にかかわり緊急性が高い情報の項目を中心に教材で扱う場面を選定し、この教材用のカリキュラムを作成した。 ・行動目標を明確にする際に、「標準的なカリキュラム案」の「能力記述」の欄や「生活上の行為の分類一覧」を参考にした。		
事業終了後の教材活用	・今年度事業で作成したものは、今年度の取組では使用していないが、今後活用する。 ・平成31年度実施の日本語学習支援の中で使用する。特に自主財源で実施している「マンツーマン方式の日本語学習支援」の支援者の活用を予定している。 ・今後の日本語指導ボランティア講座で、平成29年度に作成した教材とこの教案をセットにして、両方を使いながら教える方法を学ぶ。 ・ウェブサイトに掲載し、当協会の日本語支援に携わっている人以外でも外国人の支援をしている人が教材とセットで活用できるようにする。		
成果物のリンク先	当協会ウェブサイト		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

言葉や生活習慣、文化の違い等から日本人と外国人の間で生じるトラブルや、言葉の壁によるコミュニケーション不足を解消するために、外国人が日本語コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設け、地域の人と積極的にコミュニケーションが取れる下地をはぐくむ。また、地域住民が日本語学習支援の支援者として外国人に寄り添い、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させ、日本人と外国人が共に認め合える地域づくりを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・受講者アンケートからわかるように、日本語教室の実施により、学習前と比較し外国人の日本語能力が向上し、日本人と会話をするために役立ったことが分かる。それにより、地域の人と積極的にコミュニケーションを図る基礎ができたと考ええる。
・生活場면을テーマにした日本語とそれに関する情報を学ぶ「せいかつのにほんごクラス」を実施した中、生活する上では言葉だけでなく様々な情報が必要であり、受講者の満足度からも取組内容には一定の効果があつたと考える。扱うテーマも昨年度の受講者アンケートを参考に、新しいテーマも加えた。地域の外国人市民が学びたい内容の教室をすることで、日本語学習の意欲も高まった部分もあつたように感じた。
・日本語教室を見ると、学習者同士のつながりができ、教室後に情報交換をしたりしている様子があつた。ブラジルや中国など多く在住する人以外はコミュニティもなく、横のつながりや情報にも限りがあるため、教室が日本語習得だけでなく居場所になってきているように感じた。
・日本語指導ボランティア講座の実施により、受講後にボランティアとしての活動に繋がっていない人も含め、地域の外国人の状況を知ってもらうことができた。
・まだ十分でないところもあるが、日本人と外国人が共に寄り添える基盤を作ることができたと考ええる。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

・日本語教室及び日本語学習教材で扱うテーマや学習する語彙・表現は、「標準的なカリキュラム案」を参考に選び、実施した。これによって、どのような行動目標が必要で、それをどのように教室活動につなげるとよいかのヒントを得ることが出来た。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

①行政機関との連携
・市の職員(災害担当、ごみの担当)が日本語指導者と共に教室活動(ごみの分別や避難所の確認など)の一部を行い、情報提供をした。直接外国人学習者に接することで、行政からの情報提供の大切さを感じてもらえた。
②日本語教育機関(市内の大学、地域の日本語学校)
・地域の日本語学校及び大学で日本語を教える日本語教師(有資格者)が日本語教室の指導者をした。
・専門的知識を持つ大学の日本語講師が教材を執筆した。
③運営委員会
・日頃から生活者としての外国人に関わる取組を行っている団体関係者(大垣市職員、日本語教育機関(市内の大学、地域の日本語学校)、公立学校の日本語教室講師、在住外国人による団体、大垣市の多文化共生事業のコーディネーター、岐阜県多文化共生推進員)に運営委員会のメンバーに入ってもらい、各機関とのネットワークを形成し、外国人との共生に関する課題を共有し、各取組の人材や情報の活用において連携・協力できた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

参加者募集にあたっては、次のように周知・広報した。
【日本語教室】
・当協会ウェブサイト、大垣市広報誌【ポルトガル語版】、
ちらし配布【日本語・ポルトガル語・中国語・英語版】(配布先:市役所、外国人学校、外国人児童・生徒放課後学習支援教室)
【日本語指導ボランティア講座】
・当協会ウェブサイト、大垣市広報誌、ちらし配布(配布先:市役所、図書館ほか市内の公共施設、市内大学、短期大学)

事業成果の発信としては、教材をウェブサイト上げるなどで、事業で作成したものを広く活用してもらえるようにしていく。

(6) 改善点、今後の課題について

①日本語教室の活動・運営について
・国籍や日本語レベルが様々でも、回を重ねるごとに学習者同士の交流ができていた。学習者間の交流を促し、学習者が教室に参加したい、また教室が居場所になるよう、教室運営に活かしていく。
・基礎コースに相当する初級前半レベルの学習者希望者が多く、昨年度の年2回を年3回に増やして実施した。それにより、より多くの人への学習機会を提供することができたが、途中で辞めていく人がいる。その理由としてレベルが合わない、また会話中心の教室であるため、シャイな人などは抵抗があつて辞めていくなどの声を聞いた。様々な背景を持つ学習を希望する人へ教室活動での工夫で対応できる部分については、コーディネーターや指導者と意見交換をし、改善できることはしていく。
・平成29年度の「緊急時会話コース」と「生活情報習得クラス」の違いがわかりづらいとの意見もあつたため、一つのコースにまとめた。コースを分かりやすくしたことにより、多くの人が参加し、生活に即使える日本語を習得できたように思う。今後も、日本語の学習を希望する人にわかりやすく、かつ学びたいことが学習できる場になるように、状況に応じて対応していく。また、そのニーズ調査も実施していきたい。
②人材の育成・研修の実施について
・現在も学習希望者に対して、人材が不足している状態が続いている。今後も在住外国人が増えることが想定されるため、新しい人材の育成に加えて、既に支援者となっている人のステップアップを含めた、人材育成研修の内容を文化審議会の報告書などを踏まえて検討していく。
③日本語教材の作成について
・当協会独自に作成した教材を日本語教育事業の取組で使用するともに、他の活用方法の検討を継続していく。
④日本語教育事業の実施体制、全体の取組について
・日本語教室の実施プログラムやカリキュラム作成など、日本語教育のコーディネートすべき業務は多岐にわたるため、今後より一層の連携を図っていく。
・日本語支援が必要な外国人に情報を伝達できるように各関係機関との連携の見直しをしていきながら、互いに顔の見える関係づくりに向け、連携方法を含め検討していく。

(7) その他参考資料

・チラシ(日本語教室「基礎コース(1～3期)」、「せいかつのにほんごクラス」(日本語、ポルトガル語、中国語、英語))
・チラシ(日本語指導ボランティア講座「養成編(1・2期)」、「ブラッシュアップ編」)
・受講者アンケート(日本語教室「基礎コース」「せいかつのにほんごクラス」,「日本語指導ボランティア講座「養成編」「ブラッシュアップ編」)
・日本語教室ふりかえりシート